

■ テーマ展「井伊家近代文書からみる彦根城」展示作品リスト ■

No.	名称	年代	数量	内容
<b>I 明治時代初期の彦根城－井伊家から国への奉還－</b>				
1	御城下惣絵図(彦根城本丸・内曲輪部分)	天保7年(1836)	1幅	彦根県庁と長浜県庁、犬上県庁が、絵図に加筆されている。
2	彦根城天守閣御払い下げにつき願書案	明治11年(1878)頃	1冊	犬上郡第一区から第十区の区長が天守払い下げを出願した文書
3	彦根城国宝指定の義につき稟請書案	昭和11年(1936)	1冊	文中で、明治以降の彦根城天守の保存の経緯について記す。
	彦根城古写真(パネル)			明治期を中心とした彦根城の古写真をパネルで展示する。
<b>II 明治時代中後期の彦根城－国から井伊家への下賜－</b>				
4	彦根御料地管理委託につき書簡写	明治24年(1891)12月20日	1冊	井伊家々従から千松館員へ、彦根城の管理委託を依頼した手紙
5	彦根御料地彦根城郭内借地貸地人名台帳	明治25年(1892)5月	1冊	井伊家から彦根町民等への彦根城内土地貸与の台帳
6	彦根城下賜につき滋賀県知事通達書	明治27年(1894)7月10日	1通	滋賀県知事から井伊家へ、皇室から彦根城が下賜されたことを通達した文書
7	彦根城彩色図	(明治27年、1894)	1枚	城内の井伊家所有地の範囲を示した平面図
8	城山落葉掻きの者取締につき書簡	明治33年(1900)5月10日	1通	文中に、「城山公衆自由に出入を許し、彦根町公園地の如き姿」との記載が見られる。
9	天守登城人下足扱い業につき継続願書	明治36年(1903)12月4日	1通	彦根町民が、天守に登る人の下足を預かる営業を行う際に、井伊家に提出した証書。
10	彦根城本丸飲食店略図	明治34年(1901)12月	1枚	彦根町民が、彦根城本丸敷地を借地し、飲食店営業を行う際に、井伊家に提出した平面図
11	桑畑継続借地につき証書	明治40年(1907)12月	1通	彦根町民が、彦根城内の米倉跡(現在の梅林)を桑畑用地として借用する際に提出した証書
12	鯉養殖の壕池継続借用につき証書	明治35年(1902)3月24日	1通	彦根町民が、幼鯉を放流し、養殖するために、彦根城内堀を借用した際に井伊家に提出した証書
13	千松館日誌	明治36年(1903)5月1日～37年4月6日	1冊	井伊家の彦根での家政機関千松館の日記。湖東保勝会が城山で展覧会を行っている記事が見られる。
14	城山縦覧登山人員報告書	明治44年(1911)5月25日	1冊	1ヵ月単位で日別の城山登山者の人数を、井伊家に報告した文書
彦根城での展覧会				
15	日露戦争戦利品学芸品古器物展覧会出品依頼書写	明治38年(1905)10月17日	1通	日露戦争戦利品学芸品古器物展覧会が彦根城内で開催され、井伊家からも所蔵品を出品している。
16	彦根子ども博覧会出品目録	明治40年(1907)4月22日	1冊	彦根子ども博覧会が彦根城内で開催され、井伊家からも出品している。
皇太子の彦根行啓				
17	彦根城山行啓御通路ノ図	明治43年(1910)	1枚	東宮(のちの大正天皇)が彦根城に行啓した際のコースを図示した平面図
18	彦根城山御休憩所図	明治43年(1910)	1枚	東宮行啓のために、彦根城内西の丸に新築された迎春館の平面図
19	彦根山由来記	明治43年(1910)10月1日	1冊	旧彦根藩士である歴史学者の中村不能齋が、彦根城の歴史をまとめた著作
20	千松館日誌	明治45年(1912)4月20日	1冊	東宮(のち大正天皇)が、明治45年4月22日から28日まで、彦根城西の丸の迎春館に宿泊滞在した時の記事が見られる。
<b>III 大正時代の彦根城－井伊家から彦根町への貸与－</b>				
21	彦根御城山天守閣借用証書書式	大正4年(1915)5月1日	1通	彦根町が井伊家から天守を借用した時の証書
22	彦根城山貸渡条件	大正9年(1920)4月	1冊	井伊家が彦根町へ天守を貸与した時の条件を記した文書
23	御城米蔵跡地檜植樹等の件につき報告書	大正7年(1918)4月9日	1綴	彦根城の御城米蔵跡地に植樹した檜の生育状況等を報告した文書
24	御殿跡地彦根中学校テニスコートに使用につき借地証書	大正8年(1919)7月1日	1通	滋賀県立彦根中学校が井伊家から御殿跡(現彦根城博物館敷地)をテニスコートに借用した際の証書
25	城山御便殿拜観人名簿	大正5年(1916)7月7日～昭和9年(1934)9月10日	1冊	彦根城の迎春館の拝観者名簿。拝観者に新渡戸稲造の名前が見える。
<b>IV 昭和時代戦前期の彦根城－井伊家から彦根市への寄附－</b>				
26	彦根城御下附につき願書	昭和17年(1942)6月15日	1冊	彦根市長が井伊家に彦根城下付を出願した文書
27	世襲財産廃止事由書案	昭和17年(1942)	1冊	井伊家が彦根城を世襲財産から除くに際して、同家が宮内大臣に提出した理由書
28	彦根城御下附につき願書	昭和18年(1943)2月	1冊	彦根市長が井伊家に彦根城下付を出願した文書

No.	名称	年代	数量	内容
V 絵はがきのなかの彦根城				
29	絵はがき(東宮彦根城山行啓記念、彦根城・松原内湖・東宮と彦根城下)	年月日未詳	3枚	明治時代後期から昭和戦前期にかけて制作された、彦根城・玄宮園などの風景写真を用いた絵はがき
30	絵はがき LOVELY VIEWS HIKONE(彦根城・楽々園)	昭和14年(1939)7月以前	5枚	
31	絵はがき(彦根城・楽々園)	年月日未詳	5枚	
32	絵はがき(楽々園・八景亭)	年月日未詳	2枚	
33	絵はがき(大正6年11月陸軍特別大演習記念 其ノ二)	大正6年(1917)	1枚	
34	絵はがき(楽々園・玄宮園)	明治41年(1908)	2枚	
35	絵はがき(彦根城)	年月日未詳	2枚	
36	絵はがき(八景亭)	明治40年(1907)	1枚	
37	絵はがき(八景亭)	年月日未詳	1枚	
38	絵はがき(彦根城、井伊直弼像、迎春館御便殿)	明治43年(1910)以降	7枚	
39	絵はがき(彦根城内御便殿、城山の眺望)	明治43年(1910)以降	1枚	
40	絵はがき(陸軍特別大演習)	大正6年(1917)	1枚	
41	絵はがき(彦根こども博覧会)	明治40年(1907)	2枚	
42	絵はがき(彦根城天守)	年月日未詳	1枚	
43	写真(彦根城大手橋竣工渡橋式)	昭和12年(1937)	1枚	彦根城大手橋の竣工渡橋式の様子を撮影した古写真
VI 彦根城の維持管理と修復				
44	城山看守任命につき契約書書式	明治時代	1冊	城山看守の業務内容が記された文書。
45	御城山御天守御櫓屋根草取手間賃請求書	明治33年(1900)7月18日	1冊	彦根城の天守・櫓の屋根の草取り賃を、井伊家に請求した文書
46	京橋左右より佐和口東まで石垣掃除手間賃領収証	明治36年(1903)3月17日	1通	彦根城京橋の左右から佐和口までの中堀石垣の掃除に要した人件費の領収証
47	御城山天守・天秤櫓・太鼓丸御修繕見積書・図面	明治25年(1892)3月5日	一括	彦根城天守・天秤櫓・太鼓丸の修繕費用見積書と修理箇所図面
48	御城山三階御番所屋根瓦一式見積書	明治36年(1903)9月7日	1通	彦根城西の丸三重櫓で交換する屋根瓦代金と人件費の見積書
49	城山極楽橋内登り坂修繕工事代見積書	明治33年(1900)10月26日	1通	極楽橋(現在の表門橋)側の城山坂道の修繕費用の見積書
50	彦根城山石垣・濠間尺図	年月日未詳	1枚	彦根城本丸の北側石垣と内堀との距離を記載した図面

◇ 展示作品は、いずれも彦根城博物館所蔵。1は彦根市立図書館移管文書、30～42は白壁町衣斐家文書、その他は、井伊家近代文書。

◇ パネルの彦根城古写真の原板は、彦根市立図書館所蔵。

## 写真解説

### 1 彦根城 天守閣御払い下げにつき願書案 1冊 (作品リストNO. 2)

明治11年 (1878) 頃

縦25.0cm 横17.0cm

当館蔵(井伊家近代文書)

旧彦根城下町の区域に当たる犬上郡第一区から第十区の区長が、犬上郡あるいは滋賀県に、彦根城天守の払い下げと、城を所管する陸軍省への照会とを願った文書の草稿。文中では、廃藩以後、彦根の住民が年々衰え、日々に貧し、意気が落ちていると現状を嘆き、かつ彦根城の取り壊しを危惧しています。そのうえで、彦根の地の衰えを挽回するために、人びとの心を一つに結びつけるものとして彦根城天守が必要であるとし、天守の払い下げを願う、との趣旨を記しています。さらに、天長節（天皇の誕生日を祝う祝日）に「天守を祝い」、人びとが祝祭日に天守から皇都を遙拝し、土地の繁栄および、家や個人、産業の保護を祈るようになりたいと述べています。なお、この願書が、最終的に提出されたかどうかは不明です。

従来、彦根城の天守の保存については、明治天皇の北陸・東海巡幸の機会に、大隈重信から天皇への進言により実施されたエピソードがよく知られています。その一方で、この文書では、天守を中心とする彦根城を自らの心の拠り所とする元武士や元町人からなる旧城下町の住民の間に、彦根城天守を保存しようとする動きがあったことが窺われます。これまで知られていなかった住民の動きを示す新たな史料であり、彦根城保存に至る経緯を解明するうえで注目されるものです。



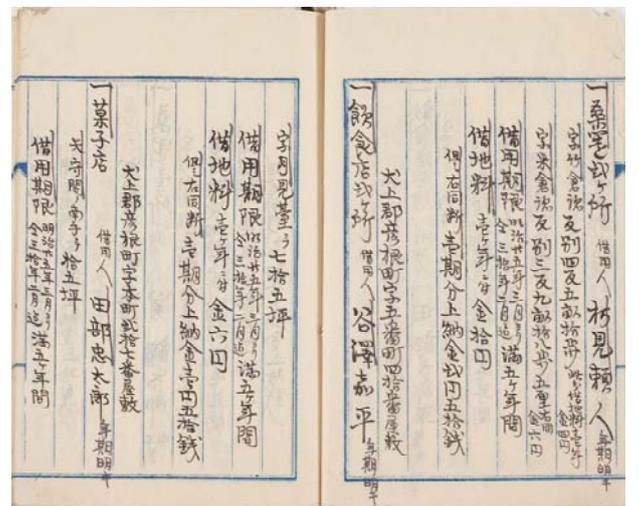
### 2 彦根御料地彦根城郭内借地貸地人名台帳 1冊 (作品リストNO. 5)

明治25年 (1892) 5月

縦23.5cm 横15.8cm

当館蔵(井伊家近代文書)

明治24年 (1891) の宮内省所管以前から、一般の人びとが彦根城内を遊覧することが許可され、城内では茶屋が営まれていました。この史料は、陸軍省所管地から皇室御料地へ編入され、井伊家に貸与、さらには譲渡されて以降の時期に、井伊家が彦根町民等に貸し出した城内土地に関する台帳です。借用の用途の他、借用者名、借用目的、借用期限、場所、借地料を記録しています。天守近くの飲食店や菓子店、彦根周辺でも盛んとなっていた養蚕業・製糸業と結びついた桑園、草刈場など、行楽や殖産、資源供給を目的とした多様な土地利用が、城内で展開していたことがわかります。



3 彦根城下賜につき滋賀県知事通達書 1通 (作品リストNO. 6)

明治27年(1894) 7月10日

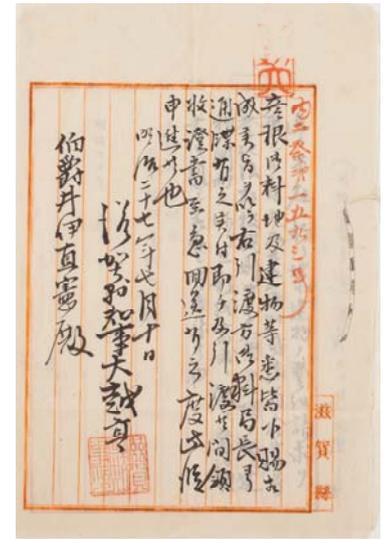
縦24.1cm 横16.4cm

当館蔵(井伊家近代文書)

彦根城は、明治24年(1891)に、陸軍省所管地から皇室御料地に編入され、8ヵ月後に30年の期限で井伊家に貸与され、さらにその2年半後に井伊家に下賜されました。このような経過をたどりましたが、実際の所は、貸与の段階で国からは内々に、将来的には井伊家に下賜する意向が示されていました。

この史料は、当時、皇室が所有し、「彦根御料地」と呼ばれていた彦根城の土地と建物が井伊家に下賜された時に、滋賀県知事大越亨から井伊家当主直憲(1848~1902)に出された通達書です。通達文では、彦根御料地と建物のすべてを井伊家に下賜することとなったため、県から井伊家に引き渡す旨の通知が宮内省からあったとしています。

彦根城は、皇室から下賜された城として、井伊家の所有に帰したのです。



4 彦根城山行啓御通路ノ図 1枚 (作品リストNO. 17)

明治43年 (1910)

縦30.2cm 横45.4cm

当館蔵(井伊家近代文書)

東宮(皇太子、後の大正天皇)が明治43年(1910)に滋賀県に行啓し、彦根城を訪れた時の巡覧経路図です。この行啓にあわせて橋を改築し、山上の西の丸には「御座所」(迎春館)を新築しました。東宮の巡覧は、往路は佐和口から彦根中学校(現彦根東高等学校)の前を通り、大手橋を経由して山を登り、鐘之丸、天秤櫓、本丸を経て、西の丸の迎春館に立ち寄り、観音台に至り、復路は観音台から西丸、本丸、天秤櫓、鐘之丸を経由して表門橋に向かう道を下り、彦根中学校を経由して京橋口に至っています。順路の各所に奉迎送者の控え所が置かれています。同45年にも、再び参謀演習見学のため東宮は彦根を訪れ、この時には、迎春館で6泊しました。



5 <sup>ひこねじょうごかふ</sup>彦根城御下附につき願書 <sup>がんしよ</sup> 1冊 (作品リストNO. 28)

昭和18年(1943) 2月

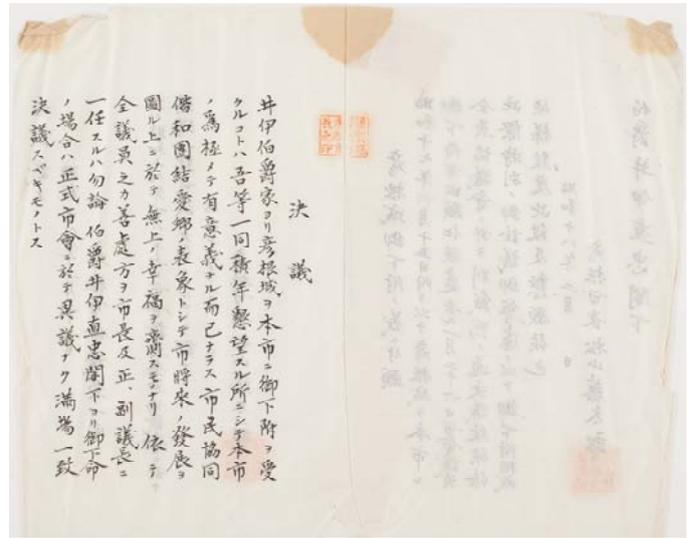
縦37.8cm 横20.0cm

当館蔵(井伊家近代文書)

彦根市長<sup>まつやまとうたろう</sup>松山藤太郎が井伊家当主<sup>なおただ</sup>直忠(1881~1947)に、彦根城の下付を出願した文書。

写真の箇所は、願書に附属した彦根市議会の決議書で、城の下付が決まった場合には満場一致で決議することを決めています。文中では、市議会議員一同が積年懇望していたところで、彦根市のために極めて有意義であるだけでなく、彦根城が、市民の「協同・偕和・<sup>あいきよう</sup>団結・愛郷の表象」として、市の将来における発展に幸福をもたらすと記しています。

彦根城が、市民に連帯をもたらす存在として位置付けられている点が注目されます。



6 <sup>おしろやまさんがいごばんしよやねがわらいつしきみつもしよ</sup>御城山三階御番所屋根瓦一式見積書 <sup>がんしよ</sup> 1冊 (作品リストNO. 48)

明治36年(1903) 9月7日

縦26.5cm 横38.7cm

当館蔵(井伊家近代文書)

国から井伊家へ彦根城が下賜されて以降、同家では、城の旧観を保つことを基本とし、城内の建物や、石垣の維持管理に努めました。井伊家近代文書には、彦根城の維持管理と修理に関する文書が多く伝えられています。史料は、瓦製造業と瓦葺き業を営んでいたと思われる前川重三郎が作成した、彦根城西の丸三重櫓の屋根瓦の見積書です。傷んだ屋根瓦を交換する際のものと考えられます。各種の瓦代や、葺き替え作業の人件費などの経費を計上しています。

